

まめダヌキ (伊吹町)

いぶきちょう

(宇都久さん・久保カズ子さん・三好ちよこさんの話)

昔はまめダヌキがおつてよく化かされたものだ。今の中学校の下の谷にまめダヌキがようおつたんじゃ。出たり引つ込んだりしていたようだ。まめダヌキに化かされた話はいろいろある。

西浦の処理場のところで、とつぜん道がなくなってしまったんじゃ。じっとして待っていたからよかったが、そのまま歩いていたら、がけから落ちるところだった。そこで、たばこをすって待ってしばらくすると、前の道が見えてきたんじゃ。また、春先の夜、魚を取っていると、一つちようちんがついているんじゃ。そのちようちんがだんだんたくさ

ん増えてきた。これは、まめダヌキの嫁入りだと家にもんてきて話していた。まめダヌキ言うと、ねこによく似ていて前足が短い。それでよう人に化けていた。仕事をしていると姉さんかぶりをして出てきて人を化かしていた。さびしい所によく出てきて、夜、ちようちんで大きな木の下を歩いていると、よくちようちんの火を消されてしまった。また、人に化けて他の人を呼んだりもして

いた。その人に化けたら、その人の声によう似てくるんじゃ。まめダヌキに呼ばれたら、一声で返事をしたらいかん。一声返事すると化かされてしまう。

(「観音寺の民話・昔話」より)

